

2022年7月期 第2四半期 決算説明会

2022.3.24



2929

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません。

これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります。



2022年7月期 第2四半期 業績ハイライト

セグメント区分及び名称の変更について

「製品及びサービス」別 → 「製品及びサービス」並びにその「販売ルート別」

旧区分	新区分	主な変更点
機能性素材事業	BtoB事業 機能性素材、健康食品及び医薬品等の研究開発及び製造を行い、食品・医薬品メーカー、流通事業者等に販売	明治薬品の「医薬品製造受託(CMO)事業」 「医薬品等の卸売(CHC)事業」を新たに追加
通信販売事業	BtoC事業 健康食品、医薬部外品及び化粧品等を、通信販売の方式で消費者へ直接販売	明治薬品の新事業「リピート通販事業」を新たに追加
バイオメディカル事業	バイオメディカル事業 独自技術を用いた創薬シーズの製薬会社へのライセンスアウト並びに分析・効能評価試験の外部機関等へ提供	2022.4.1付で吸収合併する(株)アンテグラルの「プロテオーム解析事業」を新たに追加予定

セグメント別ハイライト

	ポイント
連結業績	第2四半期累計としては過去最高の売上高及び利益
BtoB事業	明治薬品の業績を2Qより取込み。越境ECは卸売りが特に好調。GABA等の主力製品は、後半のナショナルブランド向け期待
BtoC事業	育毛剤売上継続、まつげ美容液成長、明治薬品の通販もダイエット関連の立ち上がり好調
バイオメディカル事業	引続き導出に向け研究開発に注力、次世代抗体開発も並行して進める

連結売上高

(百万円)

	2021年 7月期2Q累計	2022年 7月期2Q累計	増減
BtoB事業	1,158	3,647 ※	214.8%増
BtoC事業	18,902	25,159	33.1%増
バイオメディカル事業	332	14	▲95.7%
合計	20,393	28,821	41.3%増

※明治薬品の2021/8/16～2022/1/31の売上高2,541百万円を連結PLへ取込み

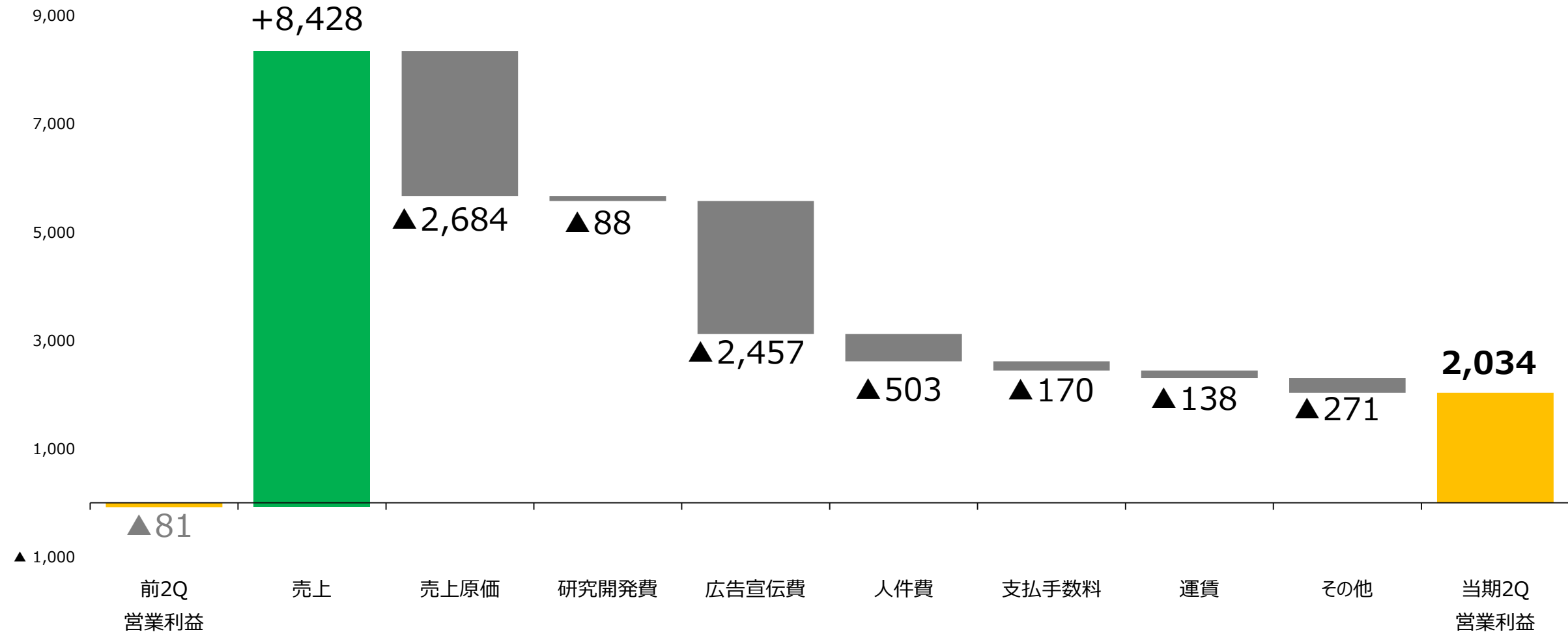
セグメント利益

(百万円)

	2021年 7月期2Q累計	2022年 7月期2Q累計	増減
BtoB事業	323	541	67.5%増
BtoC事業	▲235	2,070	+2,305
バイオメディカル事業	174	▲138	▲312
調整額（全社費用等）	▲344	▲440	▲96
合計	▲81	2,032	+2,114

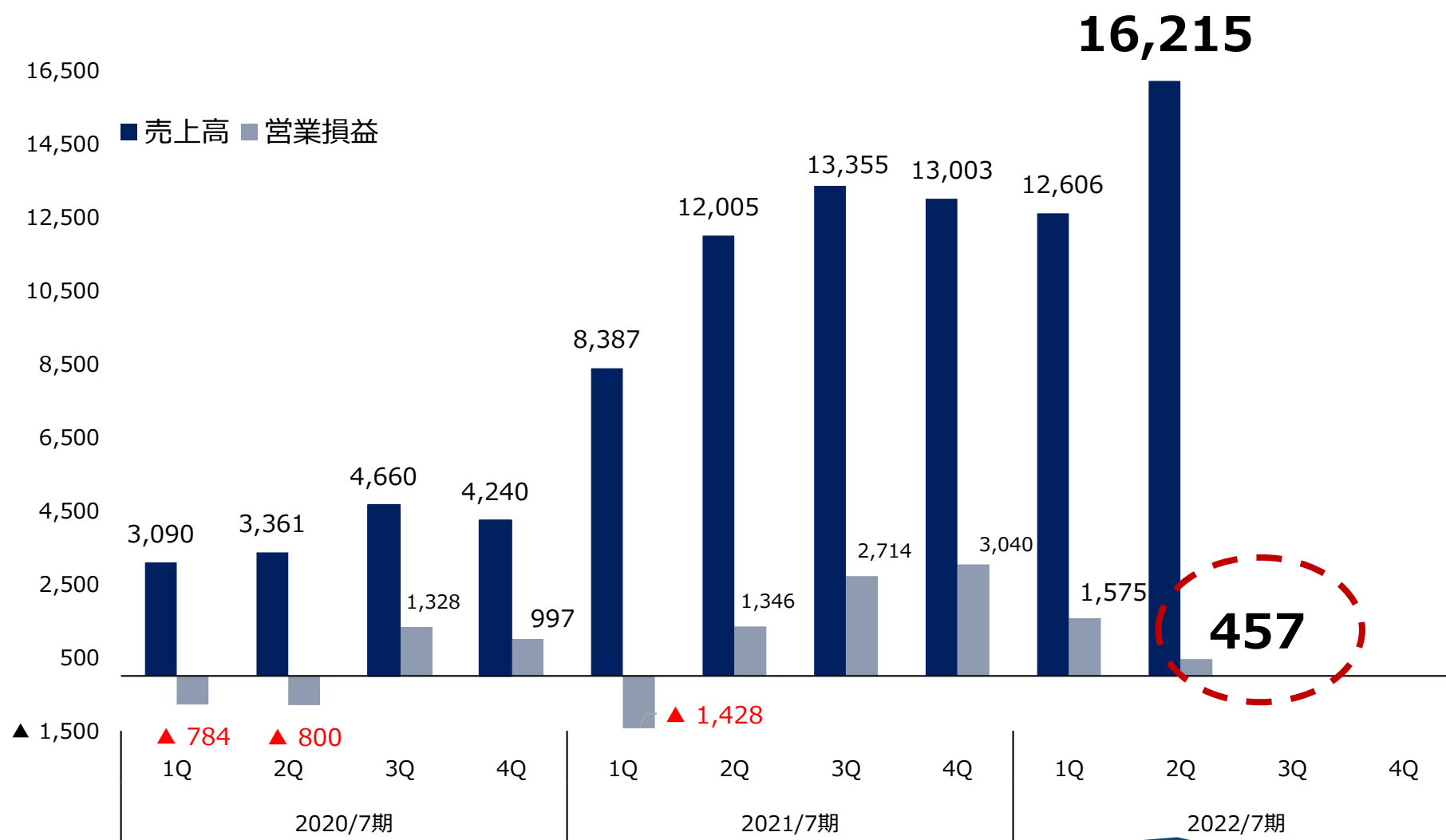
営業利益増減分析

(百万円)



連結四半期業績推移

(百万円)



研究人員の採用強化による研究開発投資、新商品及び主力商品への広告投資、
M & A 推進及びアライアンス構築に注力



B to B 事業

アイテム別売上

(百万円)

	2020/7期					2021/7期					2022/7期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
ファーマギバ	279	295	385	275	1,235	208	369	331	439	1,348	152	304			
ボーンペップ	32	59	127	52	271	37	54	69	86	248	47	50			
葉酸たまご	17	16	18	17	69	10	14	12	10	48	15	11			
ランペップ	9	18	14	41	84	4	6	22	25	59	5	24			
セレプロン	1	8	33	56	100	6	19	12	83	121	2	6			
HGP	4	0	4	6	15	3	1	1	43	50	5	2			
カテキン	1	2	3	3	10	3	10	14	10	39	4	3			
鶏卵抗体	2	2	3	2	10	5	2	2	2	13	2	3			
iHA	2	8	3	7	22	3	4	0	4	12	0	4			
越境EC	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	23	85			
その他素材	62	44	53	39	200	51	34	33	48	167	16	18			
OEM	81	52	244	174	553	126	179	267	166	739	228	84			
CMO												1,672			} 明治薬品※
CHC												869			
合計	495	511	891	676	2,575	460	698	769	924	2,852	504	3,143			

※明治薬品の2021/8/16~2022/1/31の売上

機能性表示食品受理件数

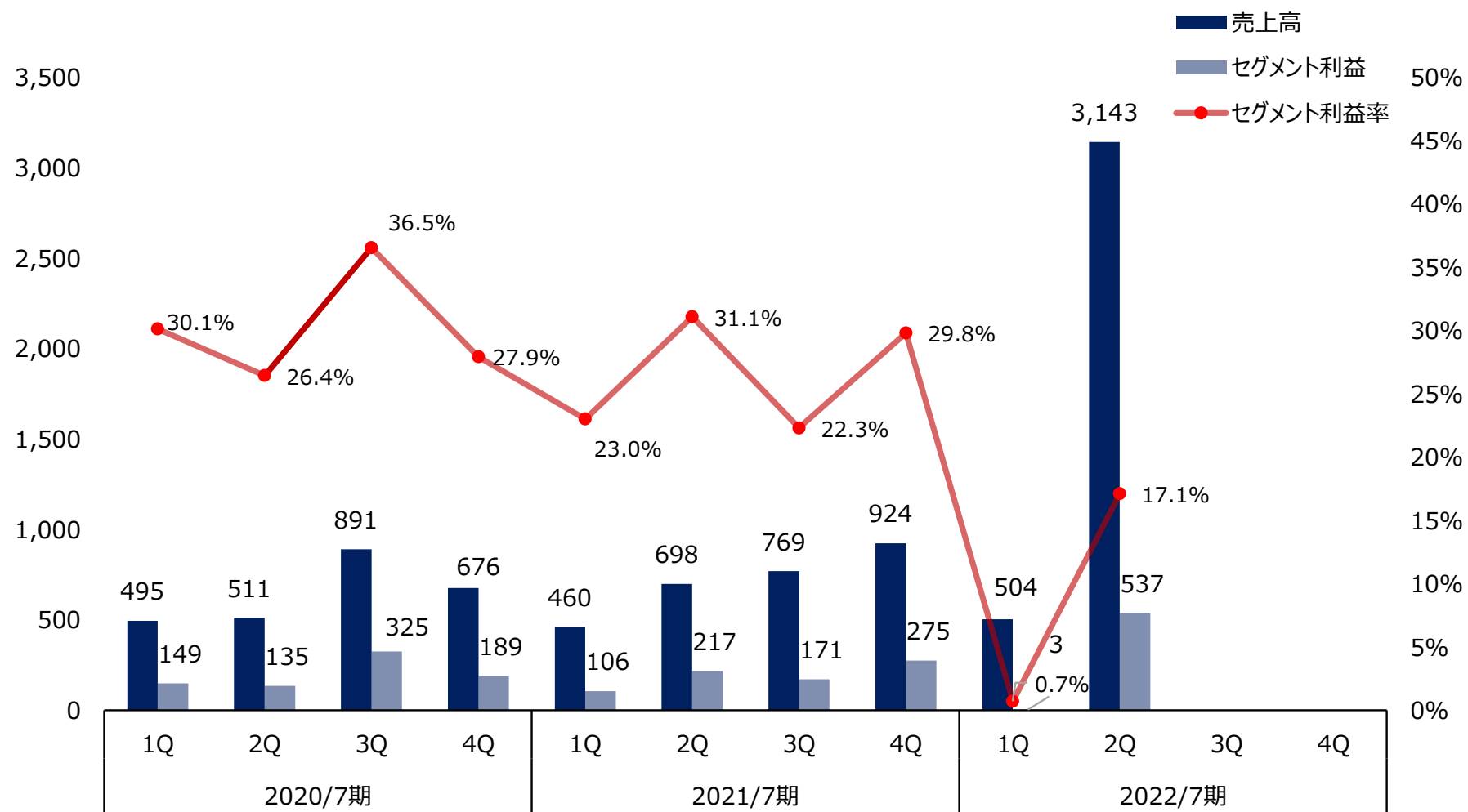
(件)

順位	機能性関与成分	受理数
1	GABA	625
2	難消化性デキストリン	416
3	DHA・EPA	268
4	ルテイン・ゼアキサンチン	218
5	ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボン	163
6	イチョウ葉 (フラボノイド配糖体、テルペンラクトン)	160
7	ビフィズス菌	143
8	葛の花由来イソフラボン	133
9	L-テアニン	126
10	アスタキサンチン	112

2022.1月末現在 当社調べ

四半期業績推移

(百万円)



明治薬品5.5ヶ月分の売上・損益を第2四半期で上乗せ

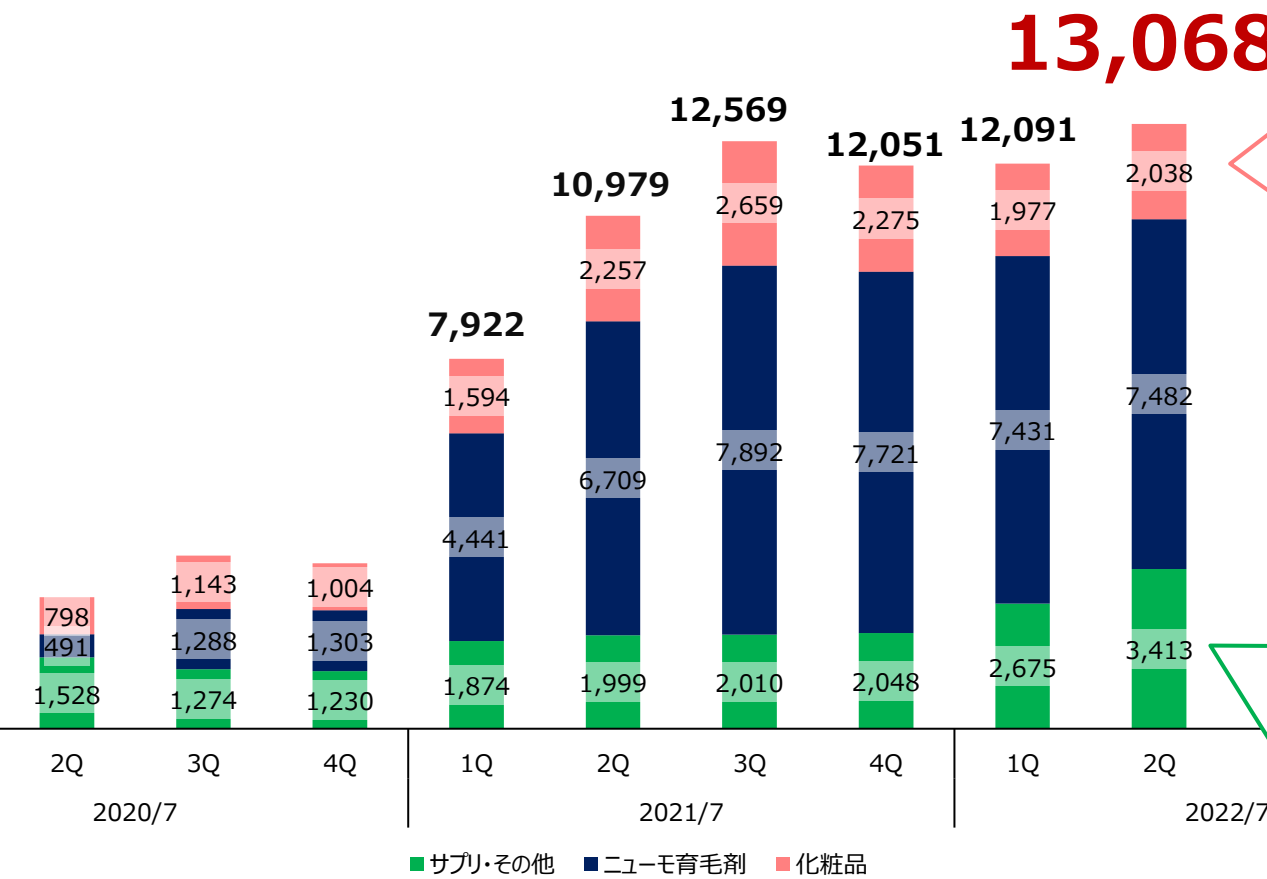


B to C 事業

アイテム別売上高

(百万円)

主な製品の売上推移



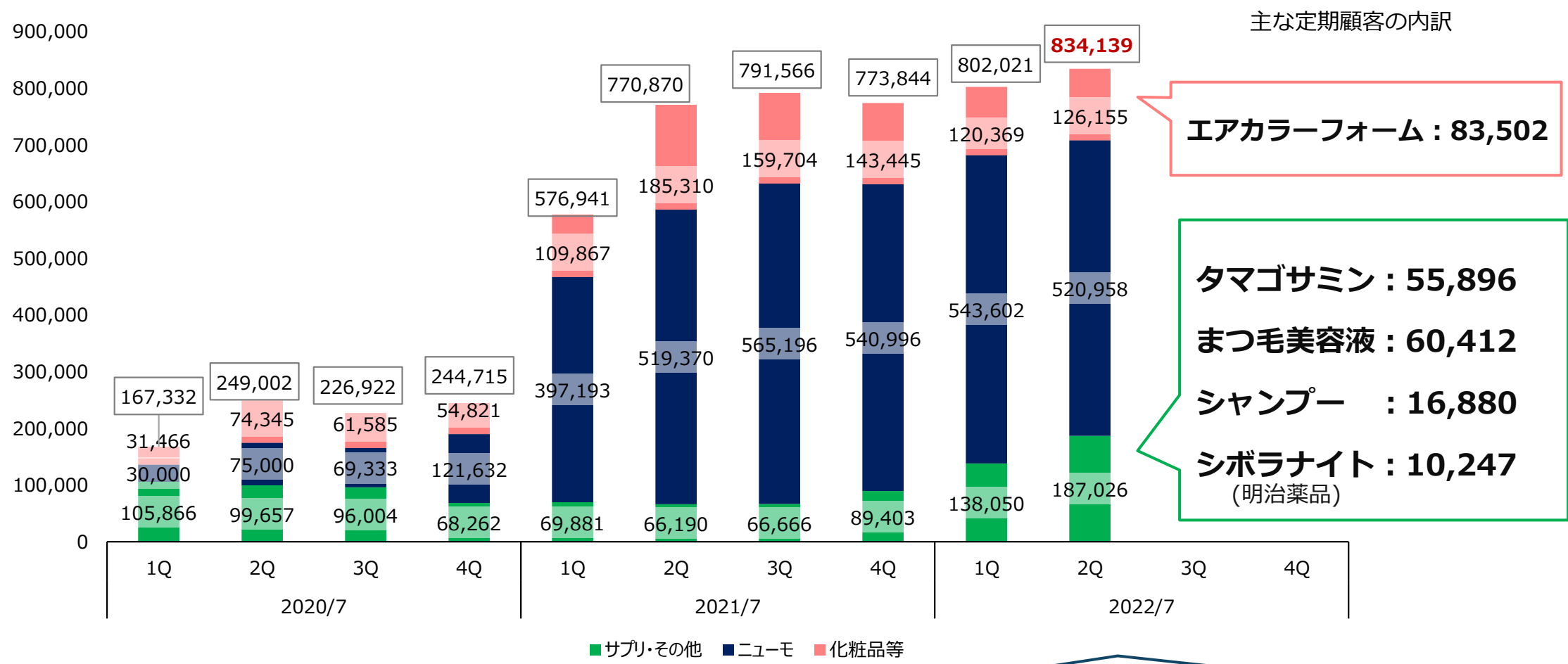
製品名	前期				当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
エアカラーフォーム	690	591	746	1,143	893	949
珠肌のうみつ	343	518	563	411	357	367

製品名	前期				当期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
ニューモサプリ	758	1,060	1,093	893	806	773
タマゴサミン	795	751	774	740	720	628
シャンプー					211	178
まつ毛美容液					74	917
ロートV5粒 アクトビジョン					194	281

まつ毛美容液が増収をけん引
 ニューモ育毛剤は堅調をキープ

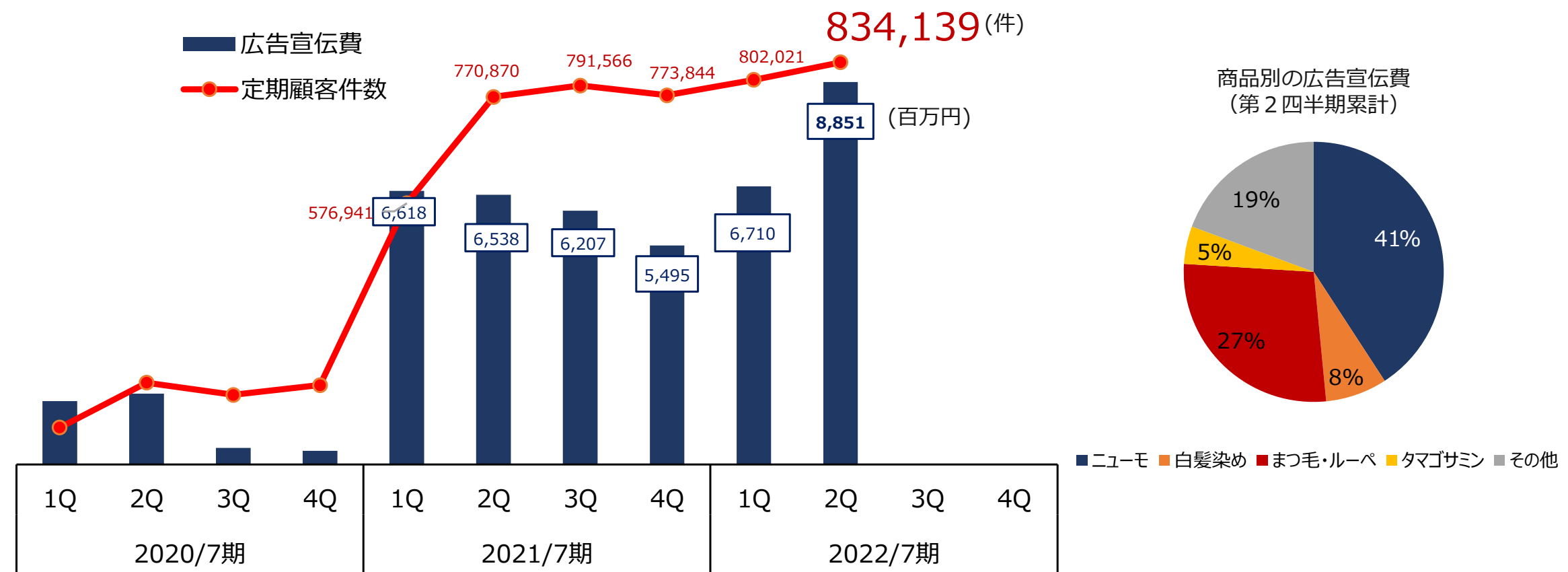
定期顧客件数

(件)



まつ毛美容液が約3万件の純増
明治薬品のリピート通販はシボラナイトGOLD中心に立ち上げ順調
ニューモ育毛剤は広告効率を重視

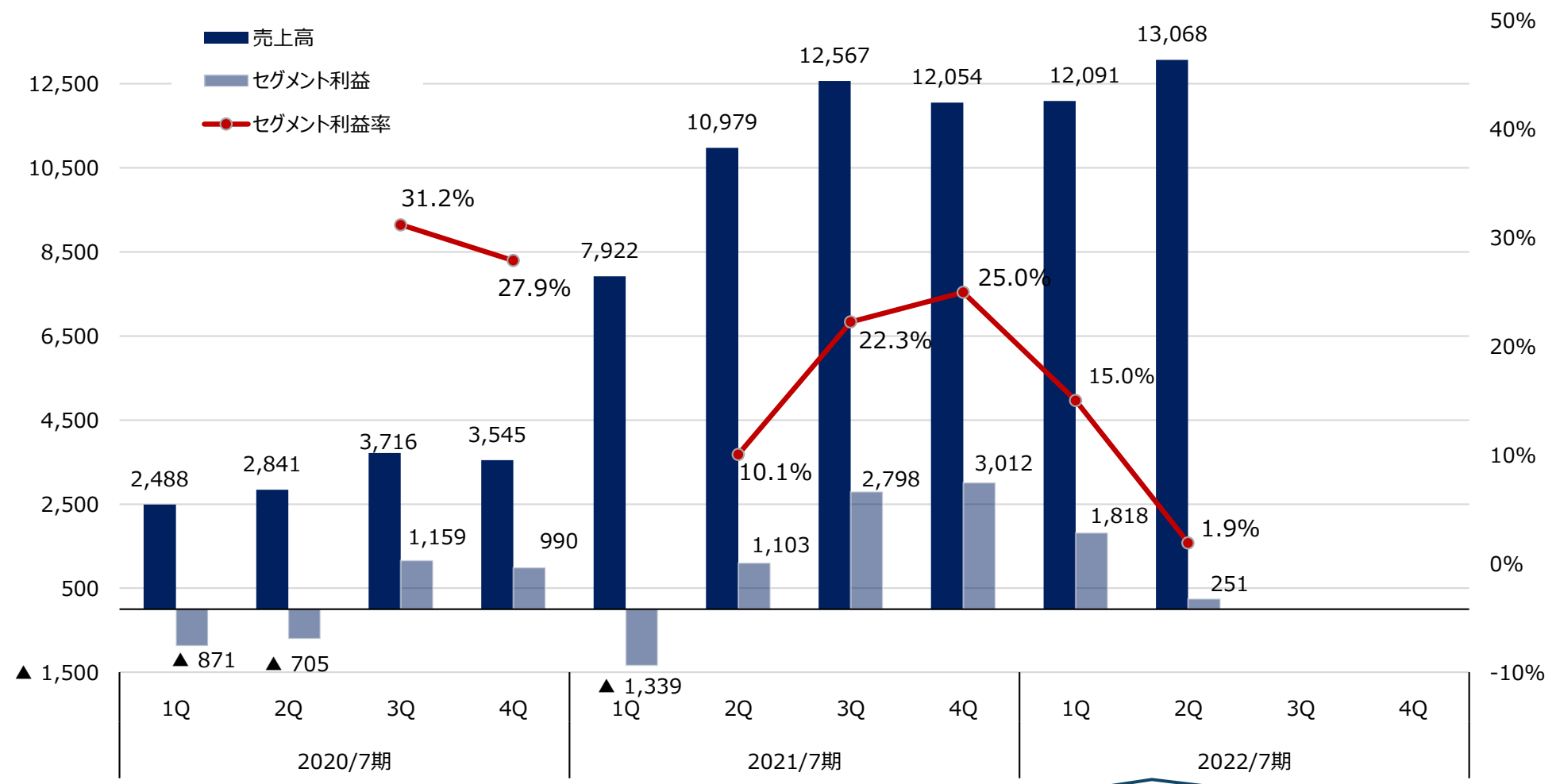
広告宣伝費と定期顧客件数



**まつ毛美容液やルーペ等の新商品に積極投資
定期顧客数純増に貢献**

四半期業績推移

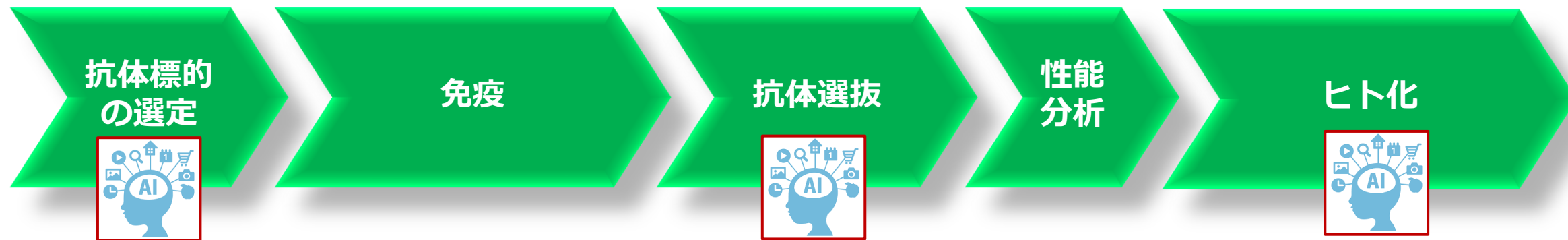
(百万円)



**1Qで出遅れた広告宣伝費投下も
黒字を確保する収益水準**

バイオメディカル事業

AI、バイオインフォマティクス専任チーム立ち上げ



分子・遺伝子間の
関係性を解析

選抜プロセス短縮
高結合力の抗体設計

最適化
(安全性、生産性)

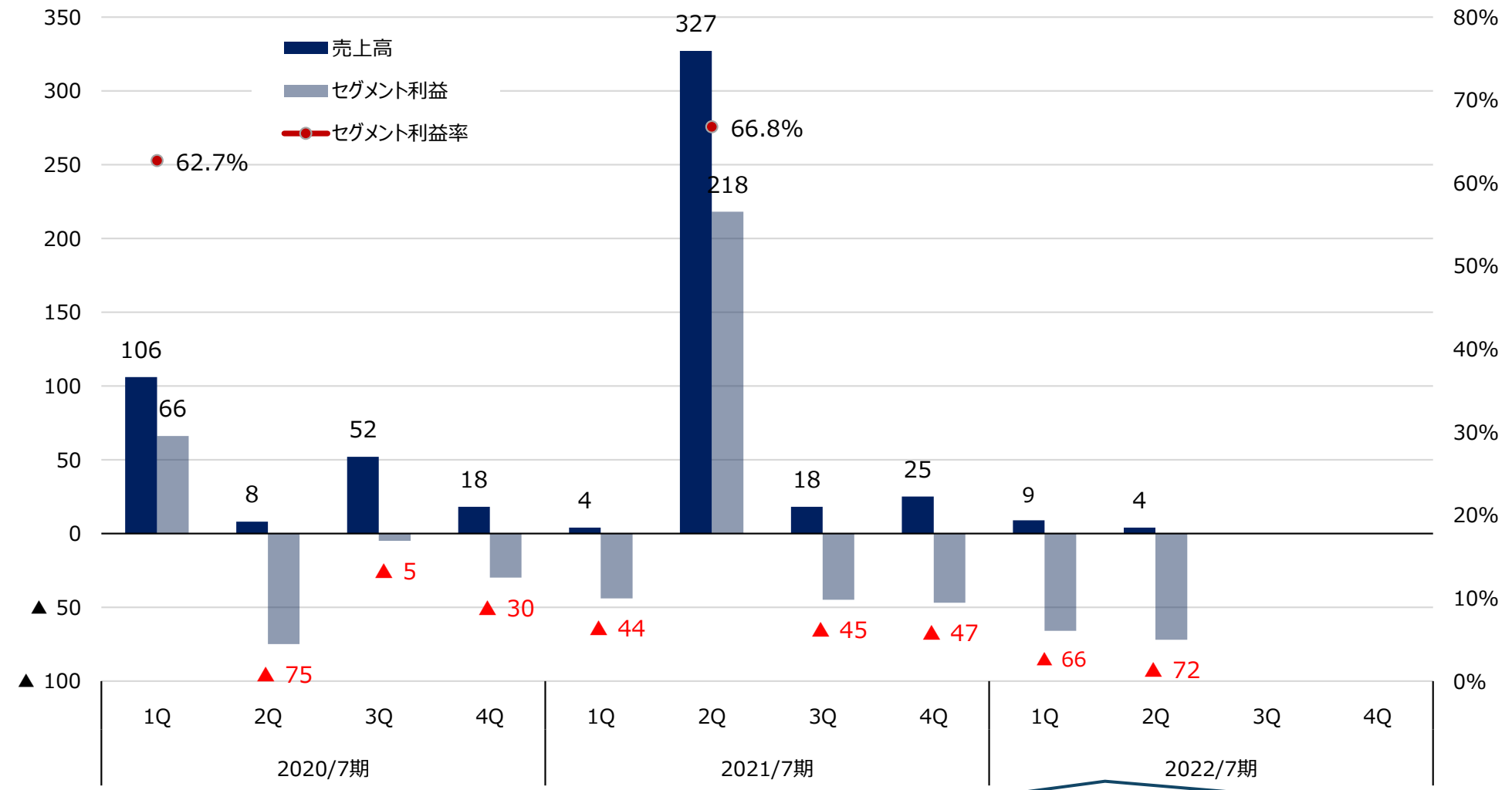
AIによる選抜・最適化により
ベストな抗体を最短で見出す



AIチーム

四半期業績推移

(百万円)



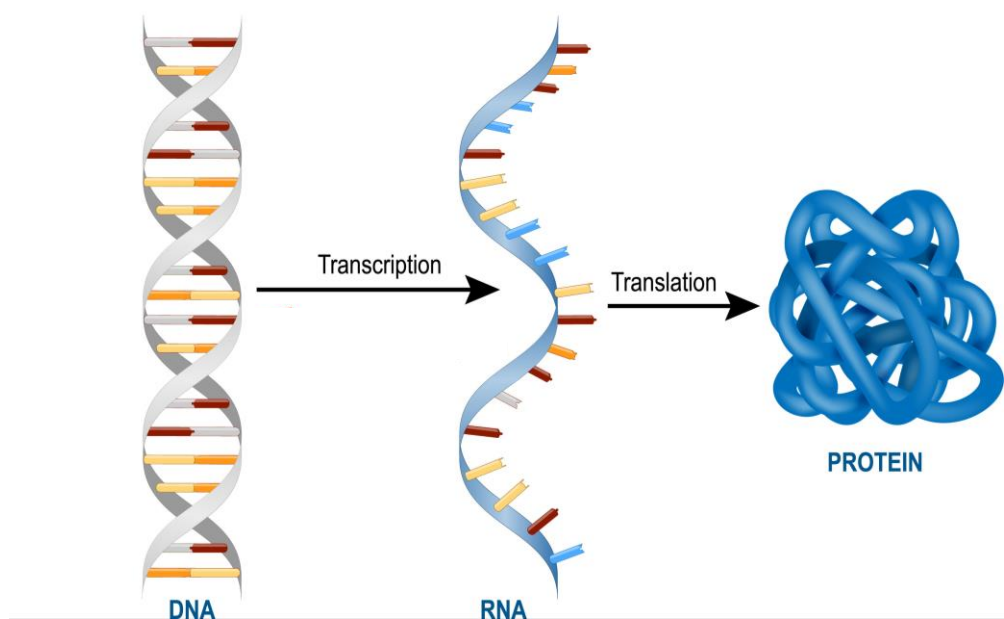
引続き研究開発を継続させる



TOPICS

【研究開発】(1) 創薬ターゲット探索強化、研究人員採用強化

プロテオーム（タンパク質）解析トップレベルの(株)アンテグラルを吸収合併(2022.4.1)



遺伝子異常の発現

タンパク質生成



徳島大学内のラボ

**疾患に直接関与する
異常なタンパク質を
直接解析**

【研究開発】(2) 卵殻膜繊維に脚光



廃棄予定の卵殻



卵殻膜を分離



加水分解



レーヨンと混合、繊維化



紡糸



最終製品へ
2022年中の販売



SDGsに本業で取り組む事例として
NHKが特集

【研究開発】(3) 認知機能改善に関する共同研究 (22年4月~)

血管性認知症の専門医チームと「食」による認知症改善について共同研究
研究開発：1,500万円 × 5年



脳機能カクテル

GABA

+

食品X

+

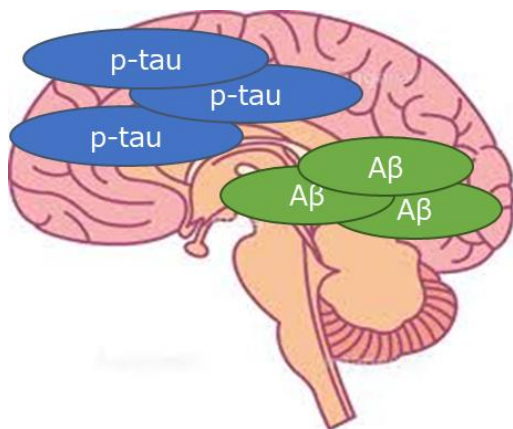
食品Y



国立循環器病研究センター
National Cerebral and Cardiovascular Center



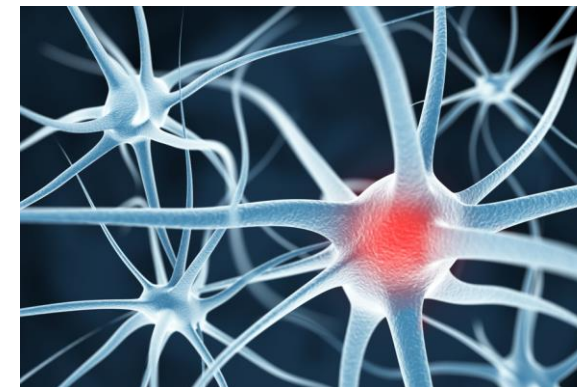
1. 老廃物の除去



2. 脳血流の促進



3. 神経細胞の活性化



【M&Aシナジー】 明治薬品



富山工場



富山工場西棟



富山南工場



【M&Aシナジー】 明治薬品 定期顧客件数10万件突破



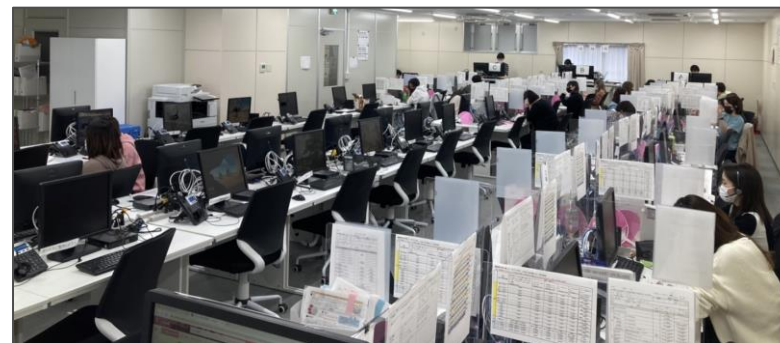
シボラナイトGOLDが好調

14,717件 → 103,018件

2022年1月末

2022年3月22日時点

ファーマフーズの通販 ノウハウを活用



明治薬品内のコールセンター

【2025年大阪・関西万博】開催概要

■名称

2025年日本国際博覧会 / (略称「大阪・関西万博」)

■開催期間 2025年4月13日(日曜日)～10月13日(月曜日) 184日間

■開催場所 夢洲(大阪市臨海部)

■来場者数(想定) 約2,820万人



提供：2025年日本国際博覧会協会

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
「Designing Future Society for Our Lives」

サブテーマ

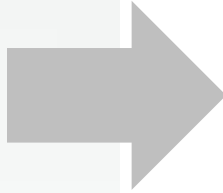
- ◆ Saving Lives (いのちを救う)
- ◆ Empowering Lives (いのちに力を与える)
- ◆ Connecting Lives (いのちをつなぐ)

コンセプト

People's Living Lab (未来社会の実験場)

【2025年大阪・関西万博】大阪パビリオン出展

タマゴの高度利用



タマゴは地球人を救う


- ①おいしいタマゴ（葉酸たまご）
- ②女性のためのタマゴ（エッグプラセンタ）
- ③機能性化粧品
- ④卵殻膜繊維（SDG s）
- ⑤ニワトリから抗体医薬
（ALAgene テクノロジー）



大阪・関西万博において、大阪府・大阪市・2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会は大阪パビリオンを出展します。
株式会社ファーマフーズは大阪パビリオンに協賛し、出展参加します。

M&A、アライアンスを引続き強化

2021年3月	三洋化成工業(株)	<p>▶資本業務提携（約4億円）</p> <p>化粧品、アグリニュートリション、医薬品等の研究開発及び販売の連携</p>
2021年7月	ロート製薬(株)	<p>▶資本業務提携（約6億円）</p> <p>ヘルス&ビューティケア及び食分野の製品開発、生産、販売の連携 （海外での素材生産基地）</p>
2021年8月	明治薬品(株)	<p>▶完全子会社化（約23億円）</p> <p>製造、ドラッグストア販路等の経営資源を活用 （医薬品、機能性食品の製造と全国ドラッグストア販路）</p>
2021年8月	(株)アイ・ブレインサイエンス	<p>▶第三者割当増資の引受（6千万円）</p> <p>認知機能低下の早期発見及びその改善のための機能性食品素材の組み合わせ （センシング技術と機能性食品の組み合わせ）</p>
2021年12月	オンキヨー(株)	<p>▶業務提携</p> <p>補聴器事業への新規参入。医療機器やセンサー等デバイスと食品等ソリューションの組み合わせ</p>
2022年4月	(株)アンテグラル	<p>▶吸収分割</p> <p>当社の抗体作製技術「ALAgene technology（アラジンテクノロジー）」と、アンテグラルが持つプロテオーム解析技術を組み合わせることで、創薬ターゲットの探索・同定をより強化</p>



2022年7月期連結業績予想 について

下期のポイント

	ポイント
BtoB事業	GABA:大手飲料メーカー新商品発売予定 明治薬品の受託、卸売部門は後半も堅調維持 研究開発投資への強化継続
BtoC事業	ニューモ育毛剤、まつ毛★デラックスWMOA、シボラナイト GOLD、白髪染め、強い商品へ効率重視で積極投資を継続
バイオメディカル事業	既存パイプラインの研究と新規パイプラインにむけた研究を同 時に進行。プロテオーム解析受託売上上乗せ

業績予想値から変更なし

	第2四半期 (累計) 実績	下期 予想	2022年 7月期予想
売上高	28,821	31,810	60,631
営業利益	2,032	3,741	5,773
経常利益	2,105	3,683	5,788
<small>親会社株主に帰属する</small> 当期純利益	1,561	2,460	4,021

来期以降の事業拡大を見据え、下期も積極的な投資を継続する計画



Appendix

免疫

老化

神経

B to B 事業

機能性素材事業

PharmaGABA®

B to C 事業

発明企業の通販事業

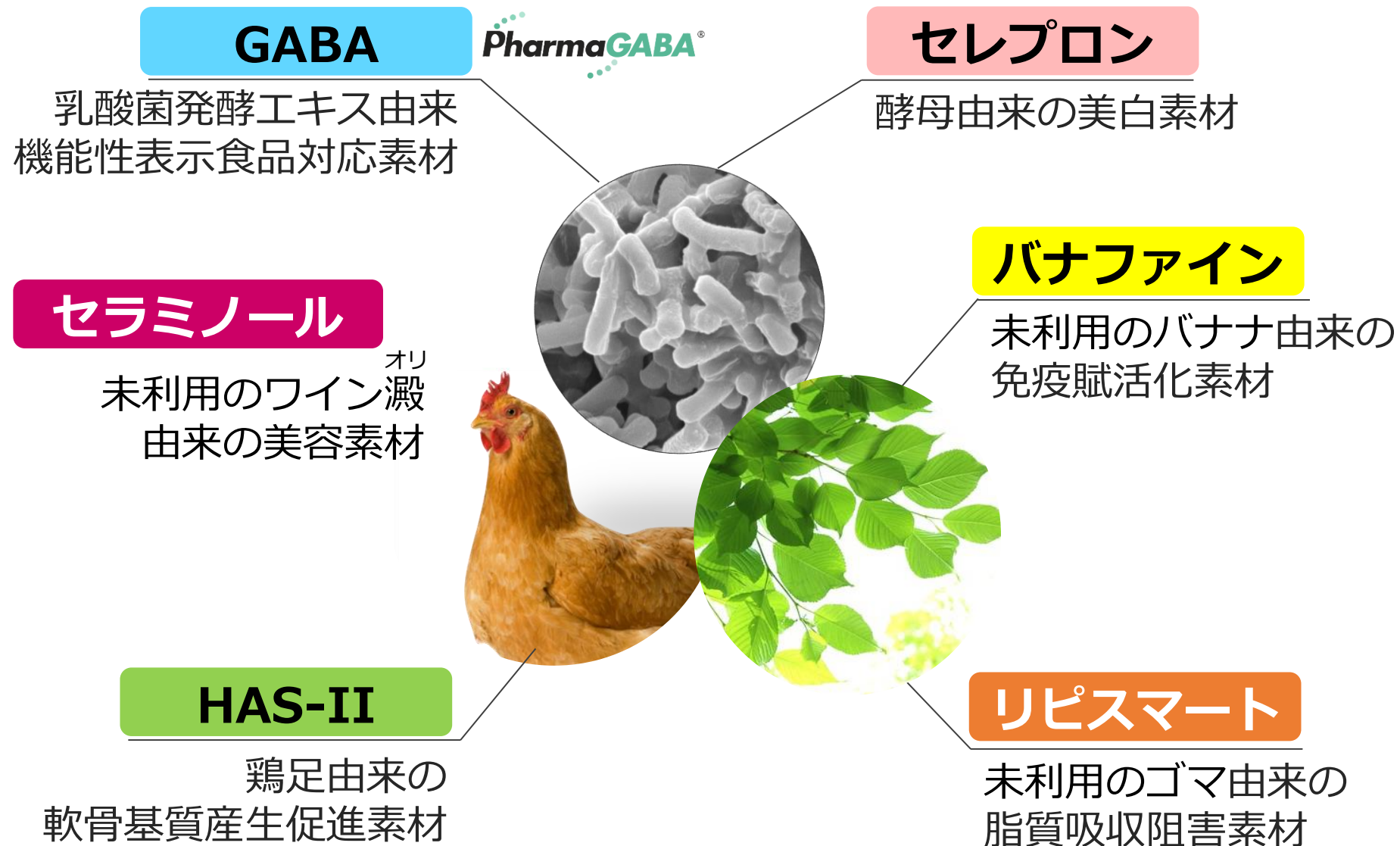
タマゴ基地®
TAMAGOKICHI

創薬事業

Drug Discovery事業

ALAgene®

“天然由来”の原料から機能性素材を探索



“タマゴ”から食品・化粧品の機能性素材を探索



iHA (アイハ)

軟骨増殖

ボーンペップ

骨形成促進



HGP

育毛促進

ランペップ

血流改善



葉酸たまご

核酸の合成



ランシエル

未利用の卵殻膜由来の
肌改善美容素材



“発明企業の通販事業”として、健康食品・化粧品・医薬品等を販売



健康食品



化粧品



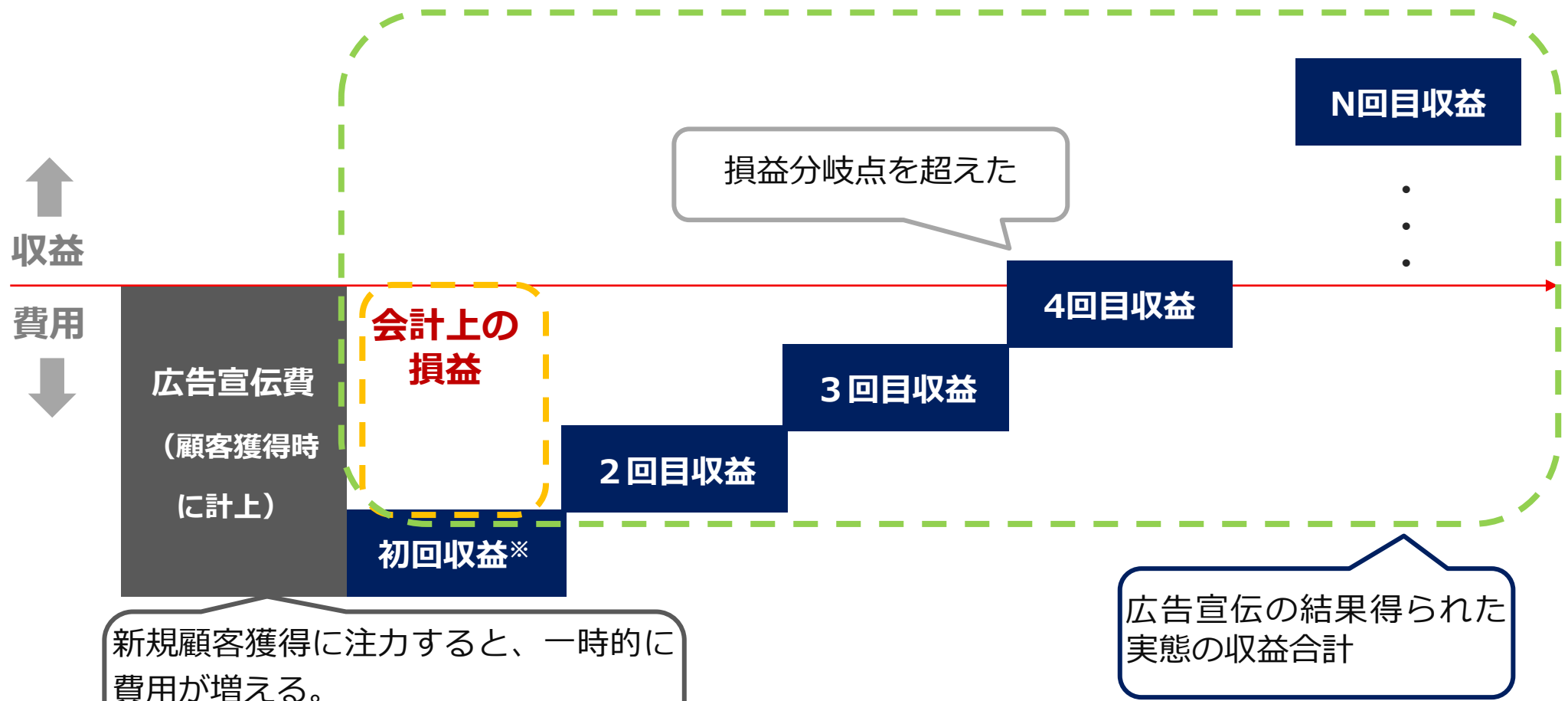
医薬品・医薬部外品



通信販売事業の収益構造

広告宣伝費は、顧客獲得時に計上するものの、売上高は定期コース継続中にわたって計上し、**売上高と広告宣伝費の発生時期が異なる構造**

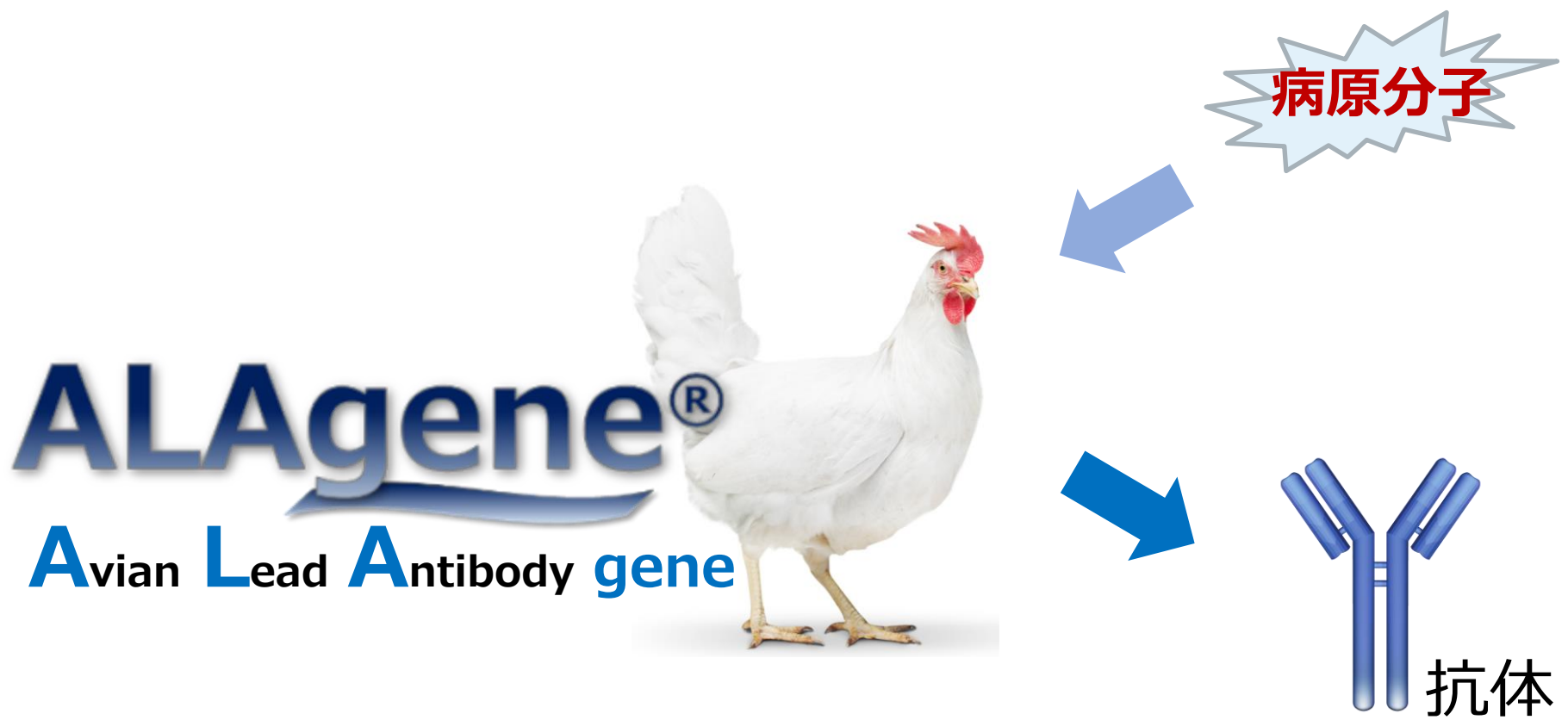
収益構造のイメージ



新規顧客獲得に注力すると、一時的に費用が増える。
製造業のように減価償却を行わない

※ 売上高から原価、運賃、決済手数料等の変動費を控除した金額

“ニワトリ”から抗体医薬品を作る



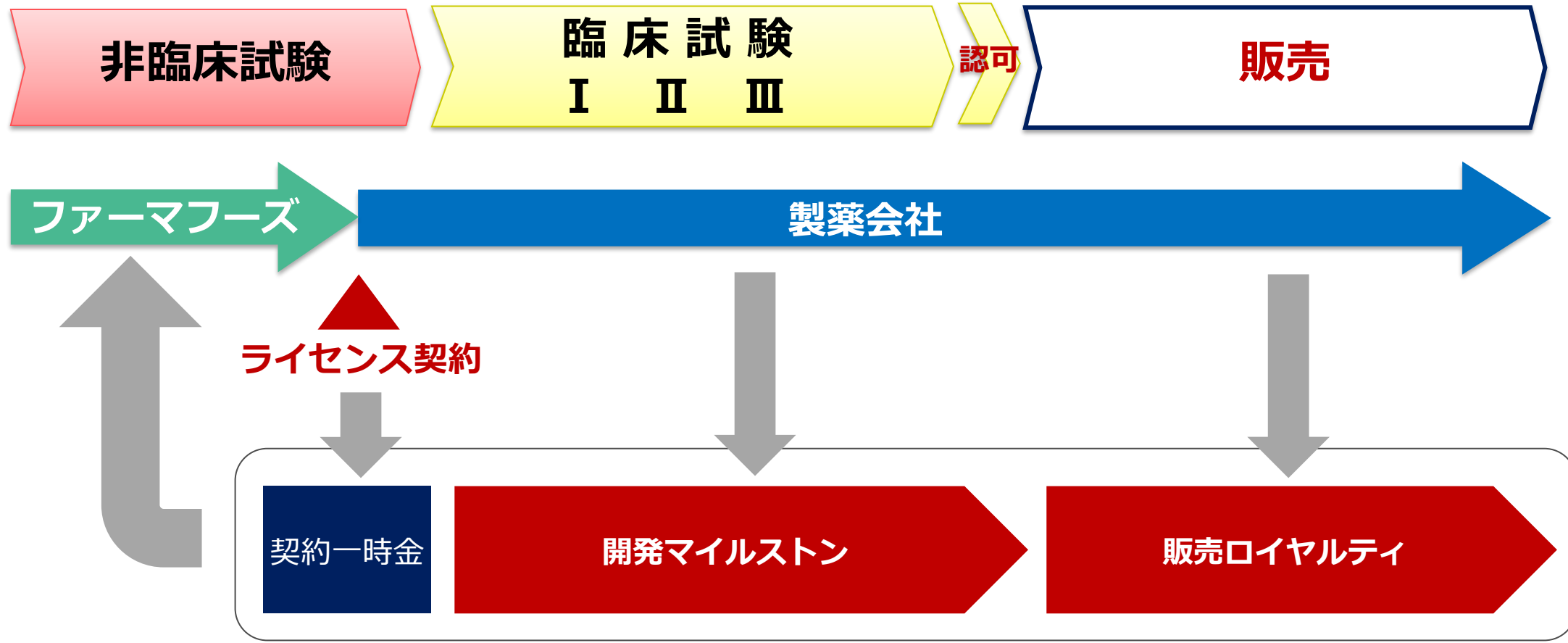
1
作製困難抗体

2
高結合力

3
ヒト化抗体

ビジネスモデル

当社の特許を製薬企業へ実施許諾することにより、ライセンス収入を得る



自己免疫疾患治療マーケットは5兆円以上

関節リウマチ治療薬のマーケット

分類	製品名	世界売上高 (2020年度)	販売会社
抗TNF α 抗体	ヒュミラ	1兆3,062 億円	米AbbVie社/エーザイ
可溶性TNF α /TNF β 受容体制剤	エンブレル	4,743 億円	Amgen社/Pfizer社/武田薬品工業
T細胞選択的共刺激調節薬	オレンシア	2,868 億円	米Bristol-Myers Squibb社/小野薬品工業
抗TNF α 抗体	シンポニー	2,774 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬
ペグ化抗TNF α 抗体Fab断片製剤	シムジア	2,289 億円	ベルギーUCB社/アステラス製薬
抗IL-6受容体抗体	アクテムラ	2,115 億円	スイスRoche社/中外製薬
抗TNF α 抗体	レミケード	1,686 億円	米Johnson & Johnson社/米Merck社/ 田辺三菱製薬